

A T H E N A アテナ (1998)

メディア TV

ジャンル SF アドベンチャー

製作国 日本

色彩 Color

1998/04/06 ~ 1998/06/29

TV放映 月曜日
25:45~26:15
テレビ東京

【解説】

バイオテクノロジーを中心とした研究開発により一大コンツェルンへと成長したWADは、その企業都市に両親と暮らす17歳の少女・麻宮アテナを厳重な監視下に置いていた。やがてアテナは激しい頭痛と共にテレパシー、サイコメトリー、テレキネシス等の超能力を発現させていく。

そんなアテナの前に現れた奇妙な青年シュウ。WADの幹部研究者でありシュウの育ての親でもある椎名まどかは、アテナの身柄拘束に失敗するとアテナに好意を示すシュウをそそのかし、超能力でアテナに戦いを挑むように仕向ける。何故まどかは執拗なまでにアテナの命を狙うのか。アテナの出生とWADの関係とは。多くの謎の解けぬまま、超常現象マニアの先輩ヒロキ、スクープ記者菅野の助けを借り、アテナはWADからの逃避行を開始するのだった……。

SNKの横スクロール・アクションゲーム「サイコソルジャー」のメインキャラ麻宮アテナを主人公にした、やはりSNKの3Dアドベンチャーゲーム「アテナ」が原案のサイキックSF。

自分の能力への不安感や周囲の人間への不信を石橋けいが丁寧に演じ、良質のドラマに仕上がっている。超能力の描写も印象的で、CGによる光線技の応酬といった安易な手法ではなく、色彩を基調とした画面が不思議な効果をもたらした。ゲームのシナリオに引きずられたためか、後半立て続けに登場する、コウモリ山の魔法陣、超古代遺跡のミイラ、人工知能タンタロス、古代人の末裔・黄雷人（はんらいびと）といった一連の設定には違和感を覚えるものの、運命に流されるままの少女が自分の進む道を自ら見出ししていく展開は、久々に良質のジュブナイルを感じさせるものであった。なお、放映時にはサブタイトルの表記は無いが、各話の最後に表示される「Go to the ○○ Stage」のテロップをここではサブタイトルとした。全12回。

【クレジット】

監督 小久保利己

門奈克雄

土岐善将

池上純哉

企画 井上光晴

プロデューサー 木川康利

東田真一

制作 石矢博

傳野貴之

神戸將光

鈴木和子

佐野泰章

原案 SNK

「サイコソルジャー」「アテナ」

脚本 鈴木貴子

| | | |
|------------|---------|-------|
| | 岡崎由紀子 | |
| | 前川洋一 | |
| | 野沢純子 | |
| | BONTA | Bonta |
| | 堀内寅 | |
| 撮影 | 久家裕二 | |
| | 永田貴樹 | |
| 美術 | 阿部大輔 | |
| 編集 | 澤路和範 | |
| | 乙竹薫 | |
| | 吉岡聡 | |
| | 井上秀明 | |
| アクション | 所博昭 | |
| ビジュアルエフェクト | 馬場昭吏 | |
| | 平野明 | |
| | 加藤桂子 | |
| | 井手広法 | |
| | 小川義房 | |
| 音効 | 原田慎也 | |
| | 高島慎太郎 | |
| | メディアハウス | |
| ナレーター | 滝本ゆに | |
| | 高橋かすみ | |
| 出演 | 石橋けい | 麻宮アテナ |
| | 窪塚洋介 | 大沢ヒロキ |
| | 松尾政寿 | シュウ |
| | 大谷允保 | 矢部リカ |
| | 楠見尚己 | 麻宮太郎 |
| | しみず霧子 | 麻宮今日子 |
| | 西尾真理 | 矢部香苗 |
| | 下山栄 | 大泉 |
| | 鬼界浩巳 | 小泉 |
| | 長倉大介 | 菅野渡 |
| | 宮本大誠 | 甲斐高次 |
| | 並樹史朗 | 兵藤譲 |
| | 神保美喜 | 椎名まどか |
| | 野口雅弘 | |